

資金調達に関する補足説明資料

【第1回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行について】

テナライド株式会社

2022年3月16日

テナライドについて

当社は「天狗」でお馴染みの居酒屋を中心に、多様なスタイルの飲食店舗を関東圏中心に100店近く展開しております。

創業より、お客様のニーズに応えるべく「**良いものを安く、早く、清潔に、最高の雰囲気**で」という**原点に立ち返ることを忘れず**に事業展開してまいりました。

足元はコロナ禍の影響が長引いておりますが、不採算店舗見直しや業態転換、また外販ビジネスなど当社ブランドの強みを活かした新たな事業拡大を推進しております。

変化の激しい時代でもお客様の支持を得られるよう、驚きと感動に溢れた店づくりを目指し、今後も事業拡大に邁進してまいります。



設立	1969年12月
資本金	5,000万円
代表取締役社長	飯田 永太
従業員数	2,170名(正社員317名) 2021年12月31日現在
平均年齢	39.3歳 2021年12月31日現在
事業内容	総合フードサービス業 ・居酒屋、和食レストラン、肉バル等の店舗運営 ・冷凍食品等の自社製品の製造・外部販売
取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行、商工中金
株式	東証一部 上場

店舗の状況

【業態別】	前期末	新規出店数	閉鎖店舗数	業態変更数	増減	2021年12月末
居酒屋業態	70 店舗	1 店舗	△3 店舗	— 店舗	△2 店舗	68 店舗
旬鮮酒場天狗	16 店舗	— 店舗	△1 店舗	△4 店舗	△5 店舗	11 店舗
テング酒場	50 店舗	— 店舗	△2 店舗	△6 店舗	△8 店舗	42 店舗
神田屋	4 店舗	1 店舗	— 店舗	10 店舗	11 店舗	15 店舗
レストラン業態	31 店舗	— 店舗	— 店舗	— 店舗	— 店舗	31 店舗
和食れすとらん天狗	31 店舗	— 店舗	— 店舗	— 店舗	— 店舗	31 店舗
合計	101 店舗	1 店舗	△3 店舗	— 店舗	△2 店舗	99 店舗

※「テング酒場」に「ミートキッチン log50」2店舗、「神田屋」に「てんぐ大ホール」2店舗を含みます。

※「和食れすとらん天狗」に「あげてけや」を含みます。

※関東のFCのレストラン業態1店舗及び居酒屋業態2店舗を含みます。

今後の事業戦略について

**コロナ禍の影響が長期化する中、お客様のニーズを第一に考え、
多様な事業展開を行うことで持続的な売上拡大を目指してまいります**

①小売りルート開拓による自社製品の販売拡大

セントラルキッチンにおけるオリジナル製品の販売を拡大いたします（スーパー、ECサイト、自社HP等）

②業態転換の加速化

既存の中型居酒屋店舗の一部の店舗については新たな居酒屋ブランドの「神田屋」「カンダヤ」へ、
または食事の店舗としても楽しめる新たなブランド「てんぐ大ホール」へ転換いたします

③“店舗イン店舗”による大型店舗→小型店舗化の促進

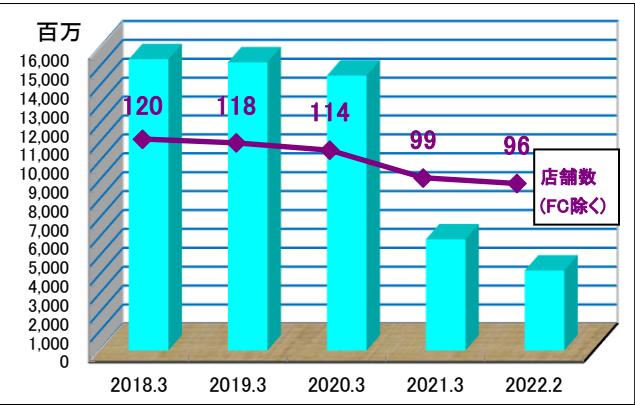
大型店舗は簡易な店内改装により、1店舗→異なるブランドの2店舗へ転換することで集客増が見込まれることに加え、キッチンの共有化による実質的な小型店舗化が可能となります

④同一店舗における“二毛作”営業

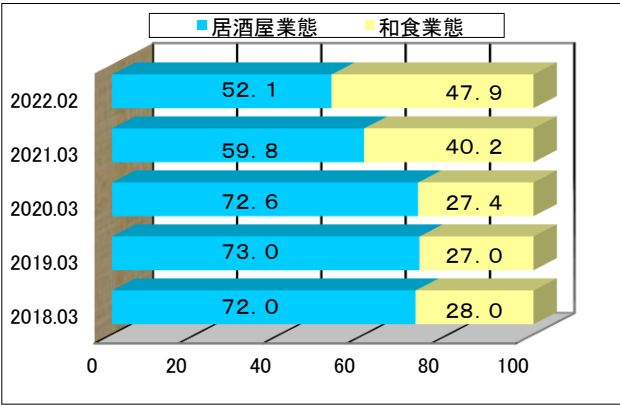
例えば、昼は「大衆とんかつ かんだ」、夜は「大衆スタンド 神田屋」と異なる屋号の営業により、
時間帯に応じた同一店舗の最適利用の実現を目指してまいります

経営成績に関する状況②ー売上高（店舗売上ベース（連結））

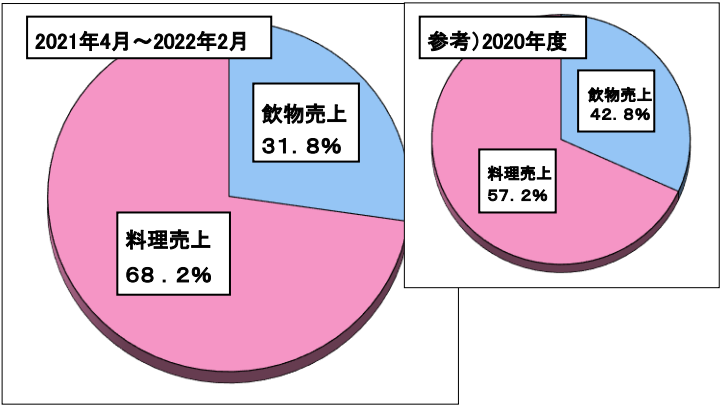
売上実績推移 ※ 1



業態別売上構成比 ※ 2

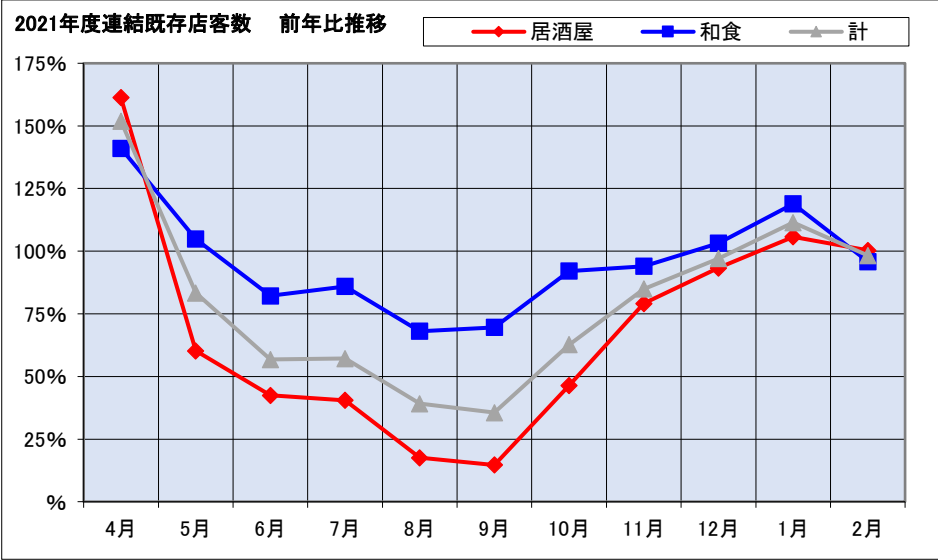
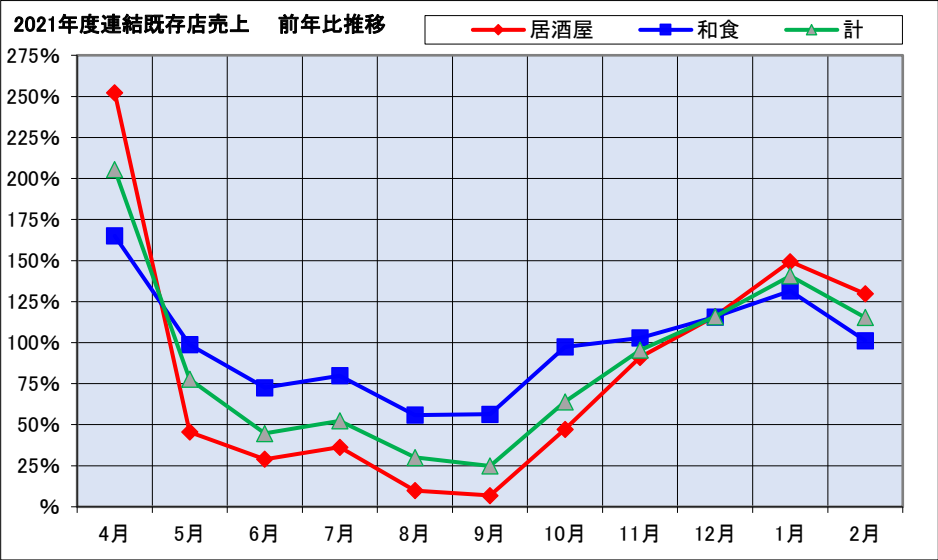


品種別売上構成比 ※ 3



- 売上高について（※1）
新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出・延長、感染拡大防止に向けた休業要請や外出自粛要請により来店客数、売上高は減少しております。
- 業態別売上構成比について（※2）
緊急事態宣言の下、時間短縮営業要請や飛沫感染への懸念から居酒屋業態において長期間休業した店舗が多かったことにより、和食業態の売上構成比が増加しております。
- 品種別売上構成比について（※2・※3）
和食業態の売上構成比の増加、加えて時間短縮営業に伴い酒類の提供時間が短くなったことより、料理の売上構成比が増加しております。

経営成績に関する状況③－連結既存店売上の推移



既存条件：同月のフル稼働店舗のみを対象（リニューアル期間は除く）。
居酒屋業態で実施しているランチ売上も含む。

客単価（上記条件で抽出）

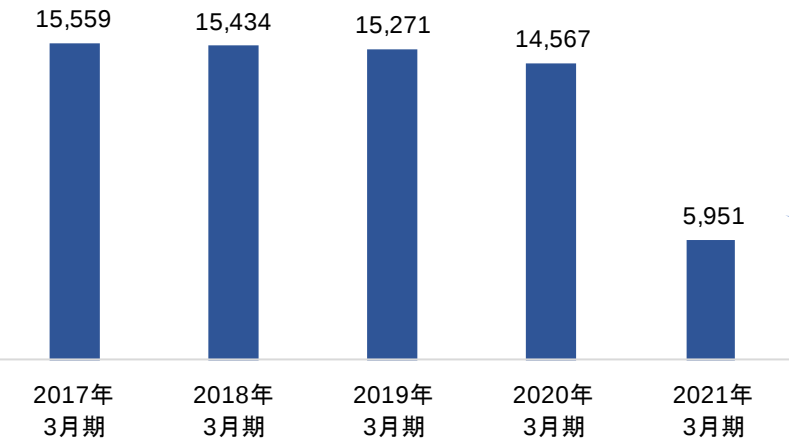
居酒屋業態	前期平均	当期平均	増減率
旬鮮酒場天狗	1,309円	1,397円	+106, 7%
テング酒場	1,248円	1,276円	+102, 2%
神田屋	1,428円	1,698円	+118, 9%
和食業態	前期平均	当期平均	増減率
和食れすとらん天狗	1,302円	1,311円	+100, 7%

- 売上・客数について
当期・前期のそれぞれの月度における緊急事態宣言の有無により、売上・客数は大幅に増減しております
- 客単価について
新商品導入やメニュー政策において販売価格の見直し等を行った結果、全業態で客単価が向上しております

今後の成長ロードマップ

コロナが常態化した中で、お客様ニーズに即した事業展開を徹底し
売上回復を目指してまいります

売上高(百万円)



お客様ニーズ

- ✓ 家庭用の冷凍食品ニーズ台頭
- ✓ 居酒屋での会食ニーズの減退
- ✓ 飲食嗜好の多様化
- ✓ 昼と夜それぞれの顧客層に対応

対応策

- ① 自社オリジナル製品の外販
- ② 食事も楽しめる業態への転換
- ③ 店舗イン店舗による小型店舗化
- ④ 同一店の“二毛作”営業

株主優待制度について

持株数	無料飲食券
100株以上	1,000円の無料飲食券(年間2,000円)
500株以上	5,000円の無料飲食券(年間10,000円)
1,000株以上	10,000円の無料飲食券(年間20,000円)

株主優待制度として、毎年3月31日および9月30日現在の株主様へ6月下旬および12月中旬の年2回(報告書および中間報告書に同封)次の基準により株主優待券をご送付しております。

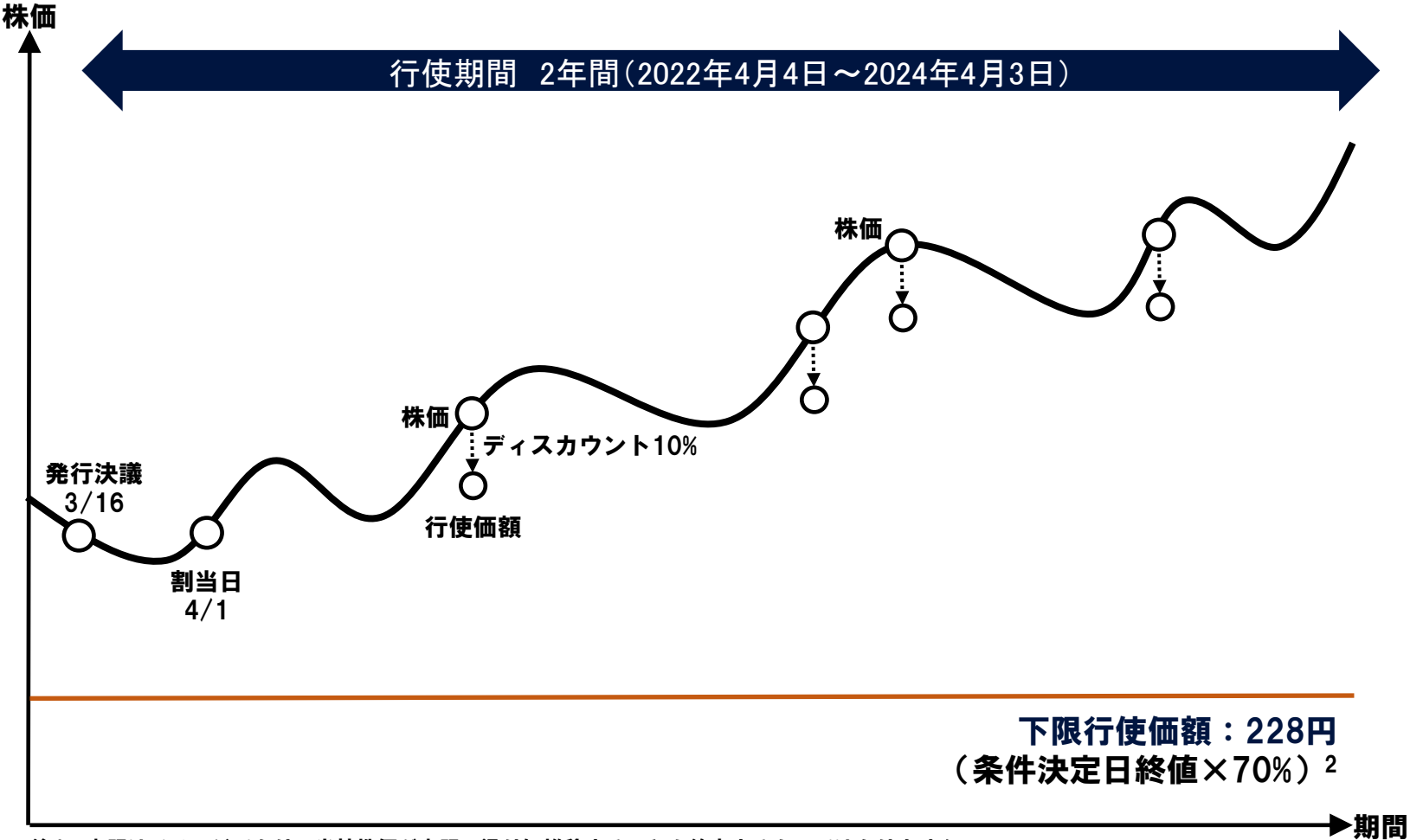
当該優待券では「旬鮮酒場天狗」、「テング酒場」、「和食れすとらん天狗」、「旬鮮だいにんぐ天狗」、「ミートキッチンlog50(ログフィフティー)」、「神田屋」、「てんぐ大ホール」にてご利用いただけます。

※ 毎年3月31日および9月30日現在の株主様に無料飲食券を送付



素材を楽しむ本格酒場 粋な酒場の原点回帰 アットホームな和食レストラン 大人の上質肉バル 立ち呑み居酒屋 カジュアルな大衆食堂

新株予約権行使進捗イメージ図¹



注1：上記はイメージであり、当社株価が上記の通りに推移することを約束するものではありません
注2：下限行使価額は、164円（条件決定日終値×50％）を下回らない範囲で、下方に修正されることがあります

Q&A①

質問	回答
コロナの状況踏まえ、今後の事業戦略について教えてください	従来のイトインスタイルのみならず、多様な顧客ニーズに対応する戦略で売上拡大を目指し、競合他社との差別化を図ってまいります。具体的には、①小売ルート開拓による自社セントラルキッチン製品の販売拡大、②業態転換の加速化（「神田屋」「カンダヤ」、「てんぐ大ホール」）、③“店舗イン店舗”による大型店舗→小型店舗化の促進、④同一店舗における“二毛作”営業、であります。
コロナの影響が長引くなか、足元の資金繰りについて問題ないでしょうか？	上記の売上拡大策に加え、既存の不採算店舗の閉鎖によるキャッシュフローの改善を行っております。取引金融機関との関係は良好であり、また営業時間短縮等に係る感染拡大防止協力金等の追加収入も見込めることから足元の資金繰りに特段問題はございません。
新株予約権とは何ですか？	新株予約権の割当予定先であるSBI証券が当該権利を行使することで、当社は行使価額相当の金銭の払込を受け、SBI証券に当社普通株式を交付します。これにより当社は資金調達を行います。
資金調達方法の概要について教えてください	- 本新株予約権をSBI証券に割当て、同社が当該新株予約権を行使することで資金が調達されるものです。行使価額は行使請求の直前取引日の当社普通株式終値の90%に相当する金額に修正されることとなっております。 - 本新株予約権には下限行使価額が設定されています。下限行使価額よりも低い行使価額で本新株予約権の行使がされることはありません。
なぜ公募増資・優先株・銀行借入等ではなく新株予約権を選択したのですか？	他の資金調達手法と比較検討を行った結果、コロナ禍の影響が大きい飲食産業においては公募増資は実現困難であること、優先株と異なり配当負担が格段に低いこと、借入等と異なり財務健全性を保ったまま機動的な資金調達が可能であること、かつ行使停止条項を採用することで希薄化についても一定程度コントロールが可能であること等を総合的に勘案し、本資金調達方法を選択しました。
本新株予約権による資金調達のメリットは何ですか？	① 行使停止期間の設定等を通じて一時に大幅な希薄化が生じることを抑制できます。 ② 発行時より株価が上昇した場合、実際の行使価格も上方修正され当初予定よりも希薄化を抑えながら予定通りの資金調達を達成することができます。 ③ 事業環境の変化等により資金調達が不要になった場合は、残存する新株予約権を取得することで過度の希薄化を抑制することができます。
デメリットは何ですか？	① 割当予定先による権利行使の進捗に応じて、行使完了までには一定の期間が必要となります。 ② 当初行使価格よりも安い値段で行使が行われた場合、実際の調達額が当初の予定額を下回る可能性があります。 ③ 株価が下限行使価額を下回って推移した場合等、行使が進まず資金調達ができない可能性があります。

Q&A②

質問	回答
希薄化の規模はどの程度ですか？	本新株予約権の目的である普通株式数は6,500,000株で一定であり、発行済株式総数（2021年12月31日時点）に対して23.2 %の希薄化が生じます。
調達予定金額はいくらですか？	- 発行諸費用を控除した手取概算額の合計は2,125百万円を想定しております。 - 但し、この金額は、当初行使価額で全ての新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額です。行使の進捗状況や行使価額の修正等に応じて増減いたします。
本新株予約権の発行に伴うコストはどの程度になるのでしょうか？	- 本新株予約権の発行に際し、第三者評価機関費用や弁護士費用等の諸経費が概算で12.8百万円発生しております。 - なお、第三者割当による発行ですので、引受・販売手数料は支払いません。
なぜ行使停止条項がついているのでしょうか？	本条項により、当社が権利行使のタイミング等を一定程度コントロールできます。そのため、急激な希薄化を回避するとともに、資金需要や株価動向等を見極めながら資金調達の時期や行使される本新株予約権の量を一定程度コントロールすることが可能であるという特徴を鑑みて、行使指定条項を付しております。
なぜ行使要請条項がついているのでしょうか？	本条項により、割当先であるSBI証券に対して当社から新株予約権の行使を要請することができ、SBI証券は当社の要請に対して最大限行使をする努力義務を負っています。結果として、当社の意向に沿った新株予約権の行使がなされることが期待されます。
大株主に変更はありますか？	- 変更は想定しておりません。 - 本新株予約権の割当予定先であるSBI証券は、本新株予約権の行使により取得する当社普通株式を長期間保有する意思を有しておらず、取得後に株価動向を勘案しつつ売却する予定と聞いております。
権利行使の状況はどのようにしてわかりますか？	東証の適時開示規則に従い、月中に行使が行われた場合は、翌月初に前月の行使状況(行使された新株予約権の数、行使価額等)を開示します。また、東証が定める大量行使が行われた場合には、その旨を直ちに開示します。
貸株・空売り等は行われますか？	当社並びに当社の役員、役員関係者及び大株主は、割当予定先との間において、株券貸借契約を締結する予定はありません。

● 本資料の取扱い（留意事項）について

- 本資料は、テナライド株式会社（以下「当社」）の一般的な情報提供を目的としており、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載される情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。
- 当社の計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する情報以外は現時点における当社の判断または考えに過ぎず、実際の経営成績や財政状態、その他の結果につきましては様々な要因により、予想内容またはそこから推測される内容と大幅に異なる可能性があります。また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承ください。投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。
- 掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず当社は一切責任を負うものではありません。本資料の内容に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。
- 本資料は事前の通知なく変更されることがあります。